

事業群評価調書（令和7年度実施）

基本戦略名	1-3 長崎県の未来を創る子ども、郷土を愛する人を育てる	事業群主管所属・課(室)長名	教育庁 生涯学習課	藤井 大作
施策名	2 郷土を愛し、地域を支える心豊かな人材の育成	事業群関係課(室)		
事業群名	⑤ 表現力や創造力を高める子どもの読書活動の推進	令和6年度事業費(千円)	※下記「2. 令和6年度取組実績」の事業費(R6実績)の合計額	5,493

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チェンジ&チャレンジ2025 本文)						(取組項目)				
読書活動は、子どもの心を豊かにし、生きるための力を身に付けさせるとともに、学力の基盤を成すものであるため、家庭・地域・学校における読書関係者が相互に連携し、県民総がかりで子どもの読書活動を推進し、読書環境を整備することで子どもが自発的に読書に親しむよう促します。						i) 司書教諭等研修会の実施や図書ボランティア等の地域における読書活動推進者への支援 ii) 「長崎県の子どものすすめる本500選」の改訂 iii) 中学生ビブリオバトル※大会の実施				
						※ビブリオバトル：出場者一人一人がお気に入りの本を持ち寄り、その本の魅力などを紹介する書評合戦				
事業群	指 標		基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	(進捗状況の分析) 第四次長崎県子ども読書活動推進計画(R元年度～R5年度)に基づき、子どもの発達段階に応じた読書習慣の形成と読書関係者の資質向上を図る取組を進めてきた。 R6年度から、第五次長崎県子ども読書活動推進計画(R6年度～R10年度)に基づき、子どもの育ちに関わる人のつながりを生かした乳幼児期から発達段階に応じた読書習慣の形成を図るとともに、子どもが主体的に読書活動に取り組むことのできる環境づくりに力を入れ、子どもの読書活動の活性化を図っている。 児童生徒の不読者率については、全校種において不読者率の増加が見られ、目標値を達成できなかった。また、学校段階が上がるにつれて不読率が上昇する傾向が引き続き見られた。これは学校段階が上がると、部活動や進路実現に向けた学習等に取り組む必要があり、読書に使える時間の確保が難しくなっていることや、スマートフォン等の普及による若者の活字離れの影響が考えられる。 なお、調査方法を児童生徒の端末から直接回答する方法に変更したことにより回答方法の誤り等も発生しているものと思われるため、回答方法についてのわかりやすい説明など、今後工夫していく必要がある。
	児童生徒の不読者率(1か月に本を1冊も読まなかった者の割合) ※小学生	目標値①		1%以下	1%以下	1%以下	1%以下	1%以下	小学生1%以下(R7)	
		実績値②	小学生0.2%(R元)	0.2%	0.1%	0.1%	2.1%		進捗状況	
		達成率①/②		100%	100%	100%	47.6%		遅れ	
	指 標		基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	
	児童生徒の不読者率(1か月に本を1冊も読まなかった者の割合) ※中学生	目標値①		1%以下	1%以下	1%以下	1%以下	1%以下	中学生1%以下(R7)	
		実績値②	中学生1.0%(R元)	1.7%	0.6%	0.4%	6.7%		進捗状況	
		達成率①/②		58.8%	100%	100%	14.9%		遅れ	
	指 標		基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	
	児童生徒の不読者率(1か月に本を1冊も読まなかった者の割合) ※高校生	目標値①		12%以下	12%以下	12%以下	12%以下	12%以下	高校生12%以下(R7)	
		実績値②	高校生12.3%(R元)	11.4%	13.0%	14.0%	16.8%		進捗状況	
		達成率①/②		100%	92%	85%	71.4%		遅れ	

## 2. 令和6年度取組実績（令和7年度新規・補正事業は参考記載）

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	事業費（単位:千円）			事業概要  令和6年度事業内容及び実施状況 （令和7年度新規・補正事業は事業内容）	指標（上段：活動指標、下段：成果指標）				令和6年度事業の成果等
				R5実績	うち 一般財源	人件費 （参考）		主な指標	R5目標	R5実績	達成率	
				R6実績					R6目標	R6実績		
				R7計画					R7目標			
				事業実施の根拠法令等								
				事業期間	法令による 事業実施の 義務付け	県の裁量 の余地が ない事業			他の評価 対象事業 （公共、研究等）			
所管課(室)名	事業対象											
取組項目 i ii iii	○	1	みんなで創る！ながさき読書活動推進事業				●事業内容 「第五次長崎県子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの発達段階に応じた読書習慣の定着につなげる取組や地域の読書関係者の連携による資質向上を図る取組を実施する。 ●実施状況 司書教諭等研修会、子ども読書リーダー養成講座、読書活動ネットワークづくり交流会等を開催し、読書活動関係者の資質向上と連携強化を図った。 「長崎県の子どものにすすめる本500選・精選版」及び「長崎県わくわくブックリスト」を周知を図った。	【活動指標】				●事業の成果 ・読書関係者を対象とした研修会の開催や、発達段階に応じた子どもの読書習慣の形成を図る一連の取組を実施した。読書活動リーダー認定者数は目標を達成した。 ●事業群の目標達成への寄与 ・研修会での啓発や、読書活動リーダーの認定など、一定の成果はあったが、不読率の増加については、調査方法改善も含め今後さらに改善が必要である。
				5,493	5,493	8,672			50	66	132%	
				7,026	7,026	10,241		160				
				R6-10	学校図書館法第6条、子どもの読書活動の推進に関する法律第4条			【成果指標】				
			81		80	98%						
			生涯学習課	○	—	—	乳幼児、児童・生徒、保護者、地域住民等	家庭読書実施率 (3～5歳) (%)	82			

## 3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i 司書教諭等研修会の実施や図書ボランティア等の地域における読書活動推進者への支援	
<b>●実績の検証及び解決すべき課題</b> 司書教諭等研修会は、学校図書館の運営についての基本的な内容や具体例を学ぶ機会として、司書教諭新規発令者の支援の場となっている。読書活動ネットワークづくり交流会では、乳幼児期からの子ども読書活動に取り組む学校や図書館関係者、福祉・医療関係者、民間団体等の交流の場を広げ、ネットワークを広げていくことが課題である。	<b>●課題解決に向けた方向性</b> 研修会において、参加者のニーズを踏まえた上で、学校図書館環境づくりなど、実践につながる研修プログラムを実施する。また、学校関係者をはじめ、子どもの育ちに関わる人のネットワークを構築するとともに、つながりを生かした読書活動が展開できるように研修内容とする。
ii 「長崎県の子どものにすすめる本500選」の改訂	
<b>●実績の検証及び解決すべき課題</b> 平成22年度に公表された「長崎県の子どものにすすめる本500選」をもとに、乳児、幼児、小学校低学年、小学校高学年、中学生、高校生、成人の7つの発達段階に応じた「長崎県わくわくブックリスト」を作成し、子どもはもとより、子どもに関わる大人を含め、多くの県民に本を手にとってもらえるよう県民に広く周知を図っていく必要がある。	<b>●課題解決に向けた方向性</b> 「わくわくブックリスト」のチラシとしおりを県内幼稚園、保育園、小中学校、高校、大学、図書館等に配布して周知することに加え、読書関係者向けの研修会の会場にわくわくブックリストの図書を展示し、本課ホームページについても紹介するなど、活用してもらえるような情報提供に努める。
ii 中学生ビブリオバトル大会の実施	
<b>●実績の検証及び解決すべき課題</b> 令和5年度をもって、本課主催の中学生ビブリオバトル大会の実施は終了したが、長崎県中学生ビブリオバトル実行委員会（委員長：長崎南山学園校長）が主催することとなった。中学生の読書活動の推進のため、市町や学校における取組を一層促していく必要がある。	<b>●課題解決に向けた方向性</b> 「子ども読書リーダー養成講座」において、ビブリオバトルなどを体験的に学ぶことができるような講座内容を実施する。読書リーダーとして認定された子どもが学校や地域において子どもの主体的な読書活動をリードすることができるよう、図書館や学校等との連携に努める。

4. 令和7年度見直し内容及び令和8年度実施に向けた方向性

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	令和7年度事業の実施にあたり見直した内容	令和8年度事業の実施に向けた方向性		
			事業期間		事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
			所管課(室)名				
取組項目 i ii iii	○	1	みんなで創る！ながさき読書活動推進事業	※令和7年度の新たな取組は「R7新規」等と、見直しがない場合は「―」と記載  1年目の事業を実施し、子ども読書リーダー研修会については、研修及び報告会を併せた合計4日の日程で実施していたが、参加者の負担等も鑑み全3日での実施へと見直した。	②	本事業は、多様な人々の連携体制を強め、つながりを生かした乳幼児期からの読書活動の活性化を図るとともに、子どもが主体的に読書活動に取り組むことのできる環境づくりを推進していくこととしており、令和7年度の実施状況を検証し必要な見直しを図っていく。	改善
			R6-10				
			生涯学習課				

注：「2. 令和6年度取組実績」に記載している事業のうち、令和6年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】
① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。 ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。 ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。 ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。 ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。 ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。 ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。 ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案（制度改正要望）する必要はないか。 ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。 ⑩ その他の視点